IWS君とリテラちゃんの画面解説

IWStreamer 配信セット

取扱説明書 | 画面の赤枠と番号を見ながら操作



映像を配信する。離れた場所から見る。

LAN・インターネット・固定IPなし・ルーター設定
MP4保存・AI検知まで、操作ごとに1ページ。

表紙は利用イメージです。本文の画面種別は各ページに明記しています。

目次と読み方

必要な操作を選んでください

赤枠①②③と、その下の同じ番号の説明が対応します。

01	画像の保存先を確かめる	4
02	LAN配信の初期設定を編集する	5
03	配信SEEDの起動順を設定する	6
04	IWStreamControlの接続先を設定する	7
05	LANのアドレスとQRコードを表示する	8
06	視聴用URLをコピーする	9
07	スマホで映像を確認する	10
08	IWViewerへ配信先を登録する	11
09	登録先へ接続し、映像を見る	12
10	画面を拡大する・切断する	13
11	URLを更新する・登録を削除する	14
12	インターネット用の設定へ切り替える	15
13	中継サーバーの起動を確認する	16
14	サーバーのLANアドレスを予約する	17
15	HTTPS用のポート転送を登録する	18
16	TURN用の転送ルールも追加する	19
17	インターネットへ公開する	20
18	インターネットの閲覧情報を渡す	21
19	4G／5Gから接続する	22
20	固定IPなしで運用する場合を確認する	23
21	1時間ごとのMP4保存を設定する	24
22	保存済み画像を手動でMP4にする	25
23	AI検知を有効にする	26
24	検知をIWStationへ通知する	27
25	配信を止める・アプリを終了する	28
26	LANでつながらないときに確認する	29

はじめに p.3 / 補足・困ったとき p.30以降

画面の見方

現行Web画面は、アプリの画面データに説明用の値を表示したものです。IWSeditor・ControlView・ルーター等は再現画面と明記しています。赤枠は操作箇所、最下部の「確認」は作業のゴールです。

はじめに

どちらのPCで行うかを確認

各ページの見出しの下に、作業するPCと画面名を示します。

配信PC	IWStreamerがJPEGを読み、映像配信・MP4・AI検知を行います。IWStreamControlは配信操作画面を開きます。
視聴PC・スマホ	WindowsはIWViewer、スマホはブラウザーで視聴します。スマホへアプリを導入する必要はありません。
中継サーバー	インターネット配信で接続を取り次ぎます。現在の構成はApache・Broker・TURN。配信PCやスマホへApacheは不要です。
ルーターを設定する場所	社内に中継サーバーを置いて外部から受信する場合です。通常、配信PCや視聴スマホのルーターへポート転送は不要です。

まずLANで1カメラから

両PCへ顧客用の対応インストーラーを導入し、カメラJPEGを確認します。LANで映ることを確認してから、インターネットへ進みます。IDやsetup.infを手で変更しません。

固定IPには2つの話があります

LAN IPは社内の機器の住所、公開IPはインターネット側の入口です。配信PCは通常どちらも固定を必須としません。社内中継サーバーへの転送先LAN IPは予約し、公開IPが変わる構成はDDNS等を別途整えます。

操作 01

画像の保存先を確かめる

配信PC



再現画面：現行の項目名に合わせた説明用の配置 / 赤枠・番号は本書の説明用

1 指定するのは日付の1つ上
撮影アプリがJPEGを更新している「受付」の場所を、ImageFolderに指定します。

2 JPEGを開いて確認
配信アプリを動かすWindowsユーザーで、最新の画像が開けるか確認します。

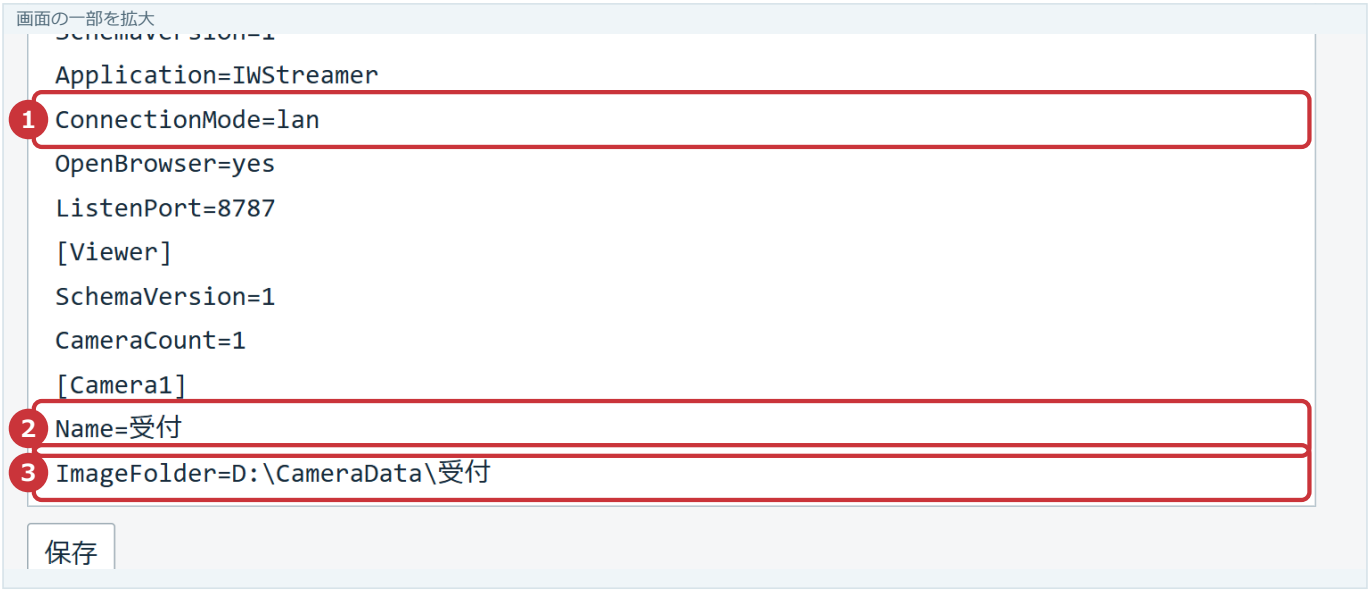
確認：画像が増え、時刻も新しくなっている。

共有ドライブを使う場合も、同じユーザーから画像を開けることが必要です。

操作 02

LAN配信の初期設定を編集する

配信PC / IWSeditor



再現画面：現行の項目名に合わせた説明用の配置 / 赤枠・番号は本書の説明用

1 最初はlanにする
同じLANのスマホで映ることを確認してから、インターネットへ進みます。

2 カメラ名を決める
画面に表示したい名前へ変更します。

3 JPEGの保存先を入力
実際のフォルダーへ置き換え、「保存」で戻ります。

確認：ConnectionMode・カメラ名・画像保存先を保存した。

設定はCP932で保存します。CameraCountは1から開始。標準ポート8787は通常変更しません。

操作 03

配信SEEDの起動順を設定する

配信PC / IWStation



再現画面：現行の項目名に合わせた説明用の配置 / 赤枠・番号は本書の説明用

1 **準備にアプリ起動を置く**
IWStreamerの起動と初期設定を準備に置きます。

2 **初期実行で実行を依頼**
配信を始める実行依頼を初期実行に置きます。

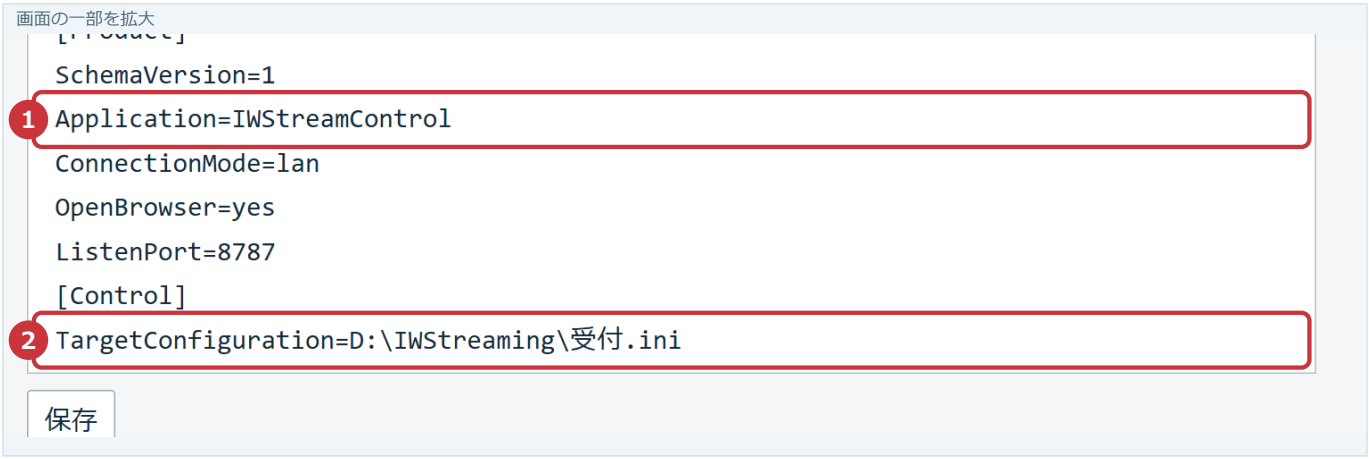
確認：SEEDを実行すると配信の操作画面が開く。

設定変更後は配信アプリを終了し、保存した設定を読み直します。

操作 04

IWStreamControlの接続先を設定する

配信PC / IWSeditor



再現画面：現行の項目名に合わせた説明用の配置 / 赤枠・番号は本書の説明用

1 アプリ名を確認
この設定のApplicationはIWStreamControlです。

2 IWStreamer用.iniを指定
TargetConfigurationに、配信用の設定ファイルの絶対パスを指定します。exeの場所ではありません。

確認：操作画面で、意図した配信の状態を確認できる。

SEEDの初期設定と外部.iniは別です。Controlから管理する運用では、参照する外部.iniを1つにそろえます。

操作 05

LANのアドレスとQRコードを表示する

配信PC / 配信操作画面



現行Web画面に説明用データを表示 / 赤枠・番号は本書の説明用

1 使うLANアドレスを選ぶ
スマホと同じ社内LANにつながるアドレスを選びます。127.0.0.1は別端末へ渡しません。

2 スマホでQRを読む
社内Wi-Fiにつないだスマホで、実際の画面のQRコードを読み取ります。

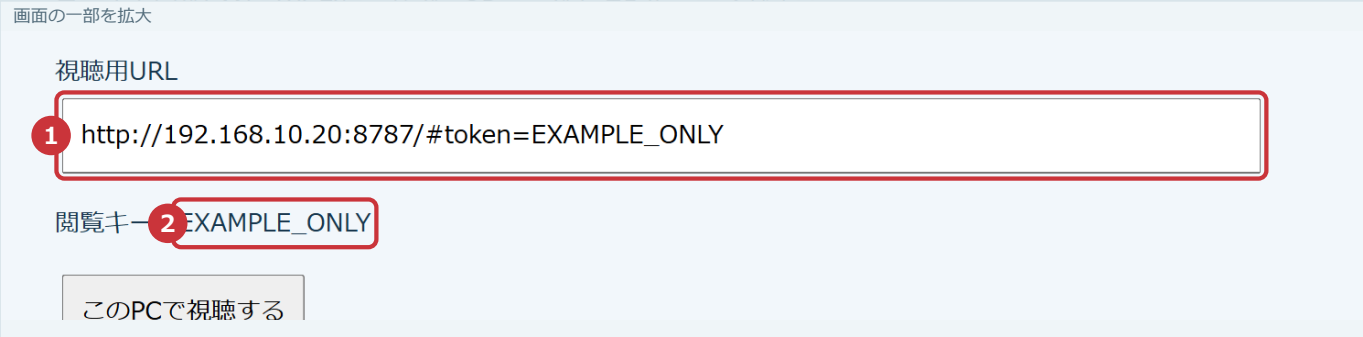
確認：スマホで視聴ページが開く。

図のQR欄は読み取り用ではありません。実際の配信画面に表示されたQRコードを使います。

操作 06

視聴用URLをコピーする

配信PC / 配信操作画面



現行Web画面に説明用データを表示 / 赤枠・番号は本書の説明用

1 最後までコピーする

URL欄を選び、Ctrl+A → Ctrl+Cでコピーします。#token=以降も含めます。

2 キーを欠かさない

閲覧キーを含む完全なURLを、見せてよい相手にだけ渡します。

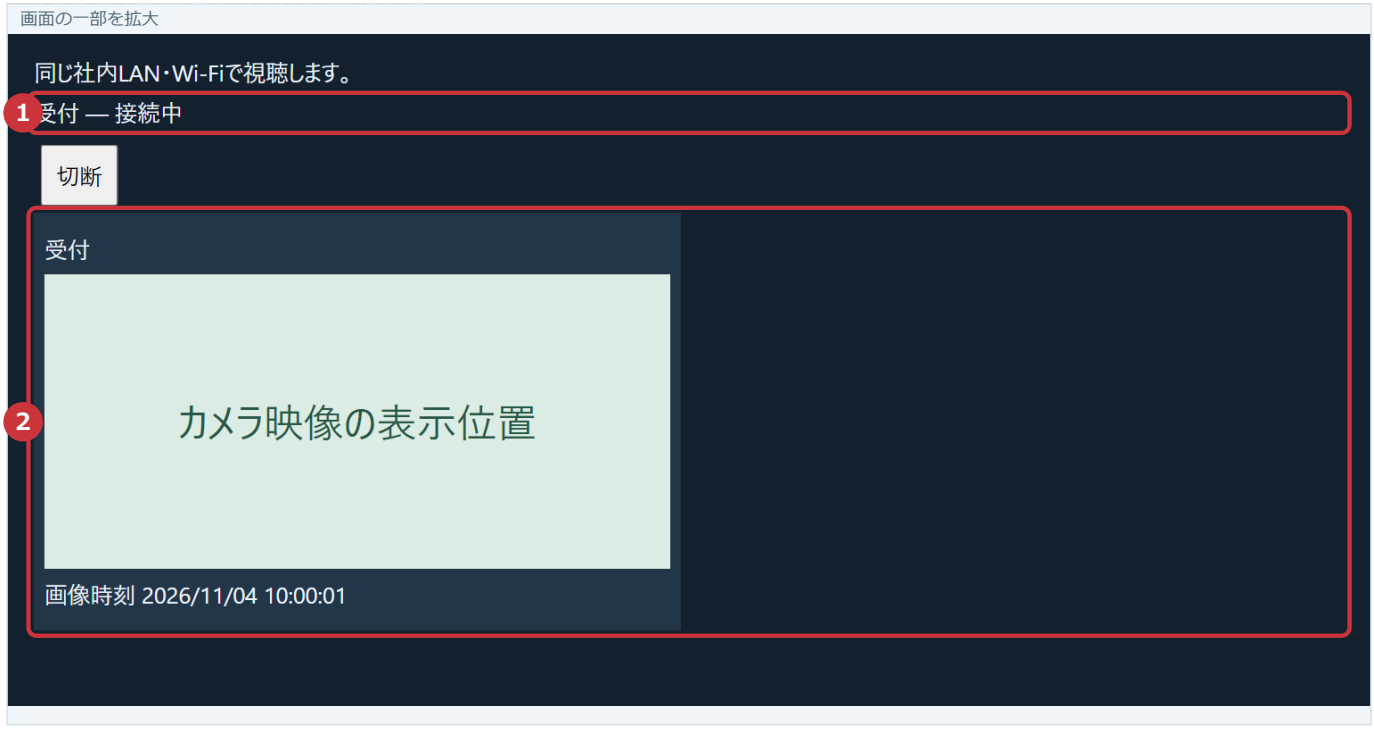
確認：貼り付け先に、httpからキーの末尾まで入っている。

管理用URLは視聴者へ渡しません。図のEXAMPLE_ONLYは接続できない説明用の値です。

操作 07

スマホで映像を確認する

視聴スマホ / LAN



現行Web画面に説明用データを表示 / 赤枠・番号は本書の説明用

1 **接続中の表示を見る**
QRから開き、対象の配信名で接続していることを確認します。

2 **画像と時刻を見る**
映像だけでなく、画像の更新も確かめます。

確認：画像が更新され、正しいカメラが見える。

LAN用URLは社内Wi-Fiで使います。会社の外ではインターネット用URLが必要です。

操作 08

IWViewerへ配信先を登録する

視聴PC / IWViewer



現行Web画面に説明用データを表示 / 赤枠・番号は本書の説明用

1 分かりやすい名前を入力

受付、支店Aなど、後で選びやすい名前を付けます。

2 視聴用URLを貼り付ける

配信方法をLAN内にし、#token=以降を含むURLを貼り付けます。

3 登録して保存する

入力エラーがなければ登録され、名前の横に接続ボタンが出ます。

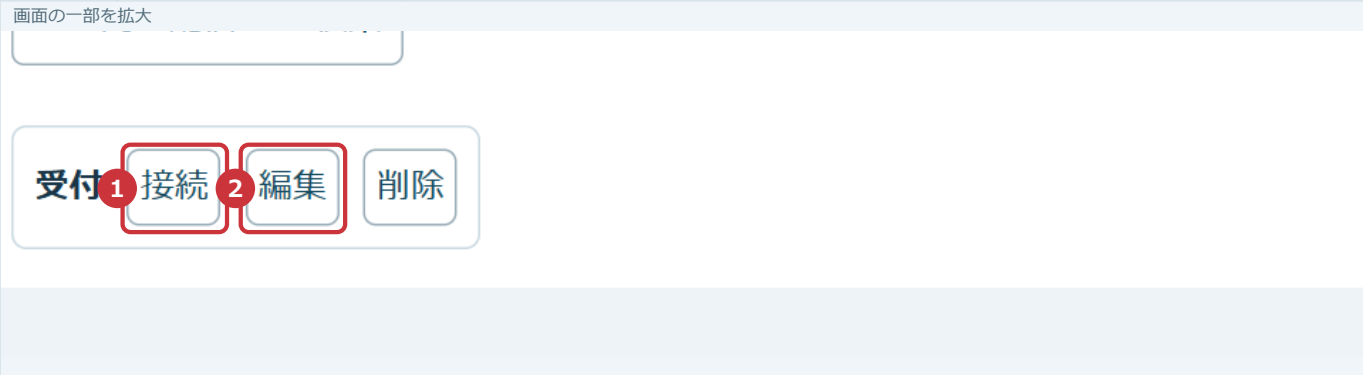
確認：登録した名前と「接続」ボタンが出ている。

検索で見つかるアドレスだけではキーが足りません。配信側の視聴用URLを使います。

操作 09

登録先へ接続し、映像を見る

視聴PC / IWViewer



現行Web画面に説明用データを表示 / 赤枠・番号は本書の説明用

1 **名前を確認して接続**
登録先の「接続」を押します。必要な拠点だけを開きます。

2 **URLを変えるときは編集**
接続先やキーを更新するときに使います。

確認：相手の映像と「接続中」が表示される。

最大32拠点を登録し、同時に4拠点まで表示します。快適さはPC性能・回線・カメラ数で変わります。

操作 10

画面を拡大する・切断する

視聴PC / IWViewer



現行Web画面に説明用データを表示 / 赤枠・番号は本書の説明用

1 **拡大する**
見たい拠点の「拡大」を押します。

2 **視聴を終える**
「切断」でその拠点の表示枠を閉じます。登録は残ります。

3 **更新時刻を確認**
静止した映像と、更新が止まった状態を区別します。

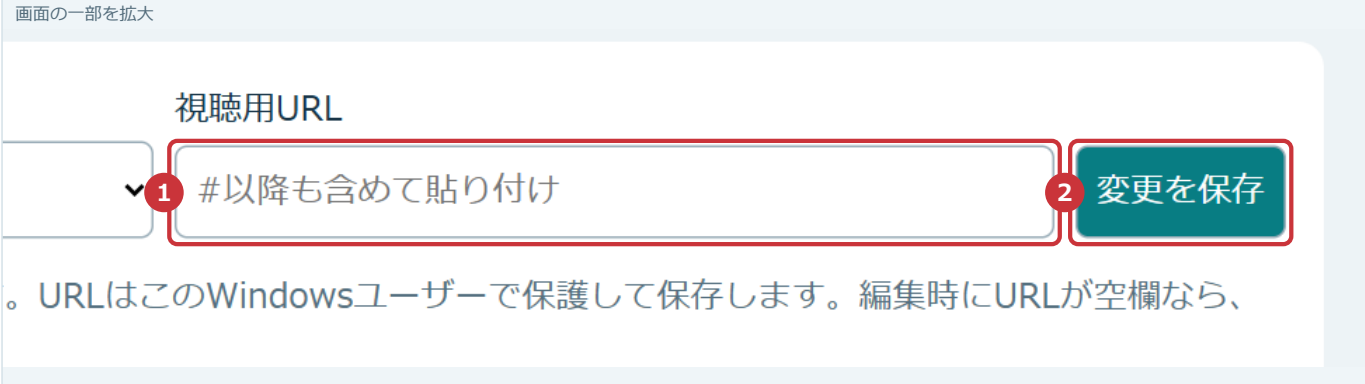
確認：切断した表示枠が消え、登録は残っている。

登録自体を消す操作は、一覧の「削除」です。

操作 11

URLを更新する・登録を削除する

視聴PC / IWViewer



現行Web画面に説明用データを表示 / 赤枠・番号は本書の説明用

1 **新しいURLだけを入れ直す**
IPや閲覧キーを変えたときは、現在の完全な視聴用URLへ更新します。

2 **変更を保存する**
空欄のまま保存すると、以前のURLを維持します。

確認：新しいURLで接続できる。

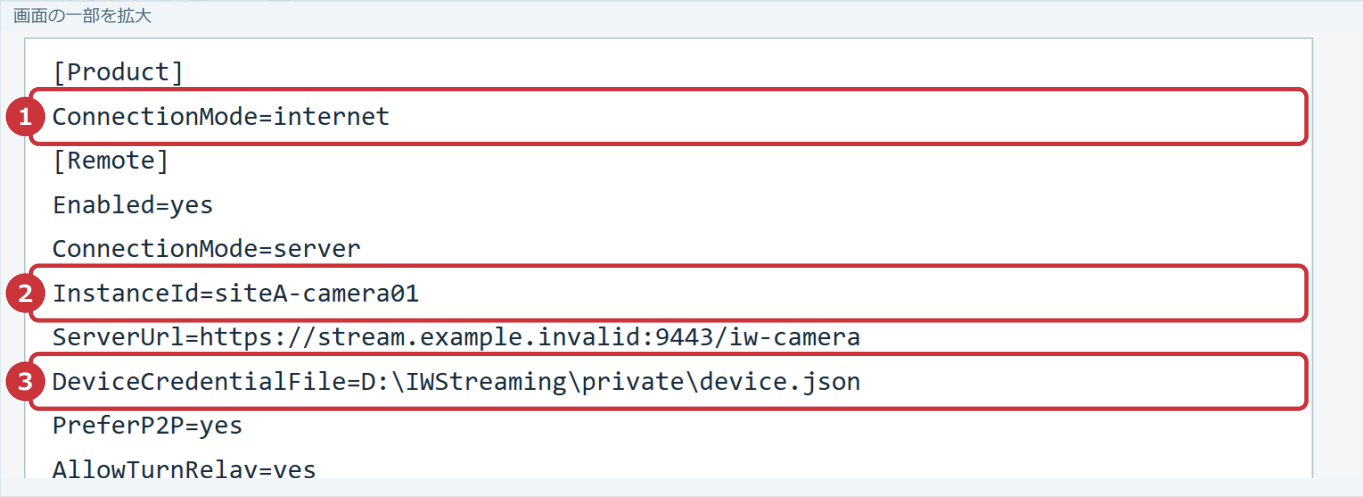
登録を消すときは、一覧へ戻ってその名前の「削除」を選びます。登録済みURLはWindowsユーザー単位で保護されます。

操作 12

インターネット用の設定へ切り替える

配信PC / IWSeditor

画面の一部を拡大



再現画面：現行の項目名に合わせた説明用の配置 / 赤枠・番号は本書の説明用

1 **Productはinternet**
既存のカメラ・保存先設定は残し、ProductのConnectionModeをinternetへ変更します。

2 **登録名とサーバーを合わせる**
InstanceIdとServerUrlを、導入担当者から受け取った値へ変更します。

3 **認証ファイルを指定**
DeviceCredentialFileに、その機器用の認証ファイルを指定します。

確認：設定を保存し、同じ設定で配信アプリを起動し直した。

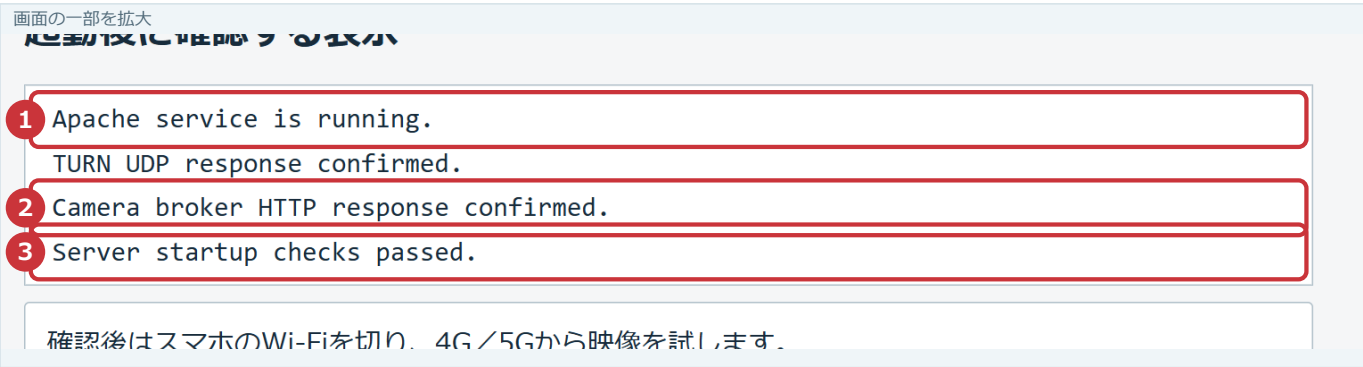
この画面は追加設定の抜粋です。Productの他の項目は消しません。例のURLや認証ファイルでは接続できません。

操作 13

中継サーバーの起動を確認する

準備済み中継サーバー

画面の一部を拡大



再現画面：現行の項目名に合わせた説明用の配置 / 赤枠・番号は本書の説明用

1 **Apacheの稼働を見る**
準備済みサーバー上でStart-All-On-Server.cmdを管理者として実行した後、表示を確認します。

2 **TURNとBrokerも確認**
TURN UDPとCamera broker HTTPの両方の成功を確認します。

3 **外部試験へ進む**
起動チェックの成功後、別回線のスマホから試します。

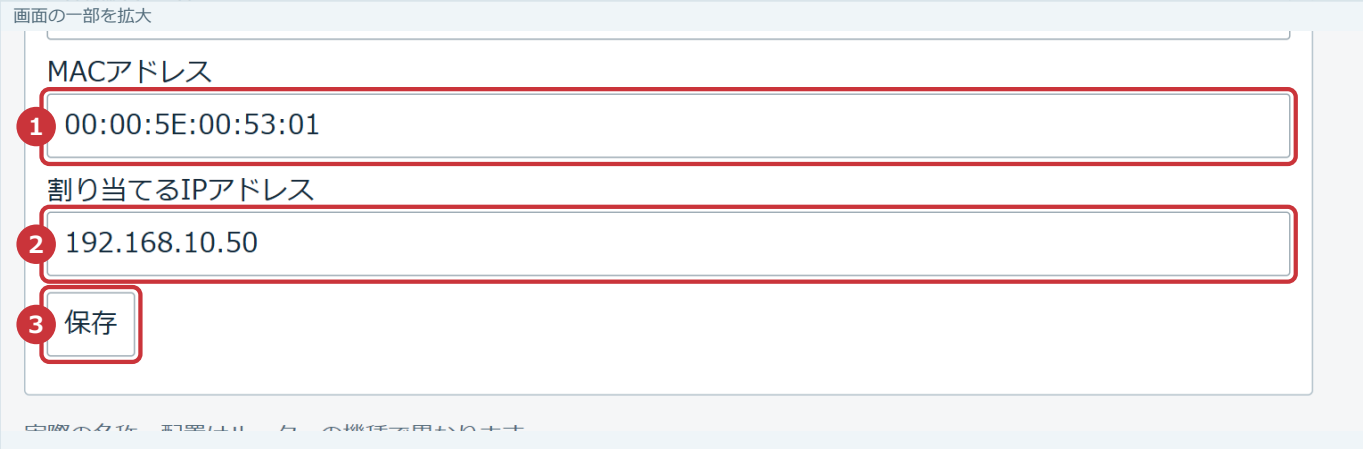
確認：起動確認が成功した。続けて4G／5Gで映像が出るか試す。

配信PCやスマホへApacheを入れる必要はありません。初めてのサーバー構築は、導入担当者が別途準備します。

操作 14

サーバーのLANアドレスを予約する

中継サーバー側ルーター



再現画面：現行の項目名に合わせた説明用の配置 / 赤枠・番号は本書の説明用

1 **正しいサーバーを選ぶ**
端末一覧でサーバー名とMACアドレスを照合します。図の値をそのまま使いません。

2 **同じLAN IPを割り当てる**
管理者が決めた重複のないアドレスを予約します。

3 **保存して再確認**
保存後、サーバーのLANアドレスが指定値になっているか確認します。

確認：再接続後も中継サーバーのLAN IPが変わらない。

機種名が未指定のため、共通の入力例です。「DHCP固定割り当て」「アドレス予約」などの名称を探します。

操作 15

HTTPS用のポート転送を登録する

中継サーバー側ルーター



再現画面：現行の項目名に合わせた説明用の配置 / 赤枠・番号は本書の説明用

1 **TCPを選ぶ**
HTTPS用のルールです。外部ポートは構築済みサーバーの公開番号へ合わせます。

2 **サーバーへ転送する**
予約したLAN IPと内部ポートを入力します。

3 **保存する**
例は外部9443 → サーバー9443です。標準443で構築した環境は、その設定に合わせます。

確認：ルールが保存され、外部回線からHTTPSページを開ける。

ルーター管理画面は機種で異なります。設定前のバックアップを残し、既存のルールを勝手に変更しません。

操作 16

TURN用の転送ルールも追加する

中継サーバー側ルーター



再現画面：現行の項目名に合わせた説明用の配置 / 赤枠・番号は本書の説明用

1 **TCP3478を追加**
同じサーバーの3478へ転送します。

2 **UDP3478も追加**
プロトコルをUDPにし、同じ番号で転送します。

3 **中継範囲も合わせる**
今回のTURNはUDP50000-50099です。自社の設定と一致させて保存します。

確認：必要なTURNルールと、サーバー側の受信許可がそろった。

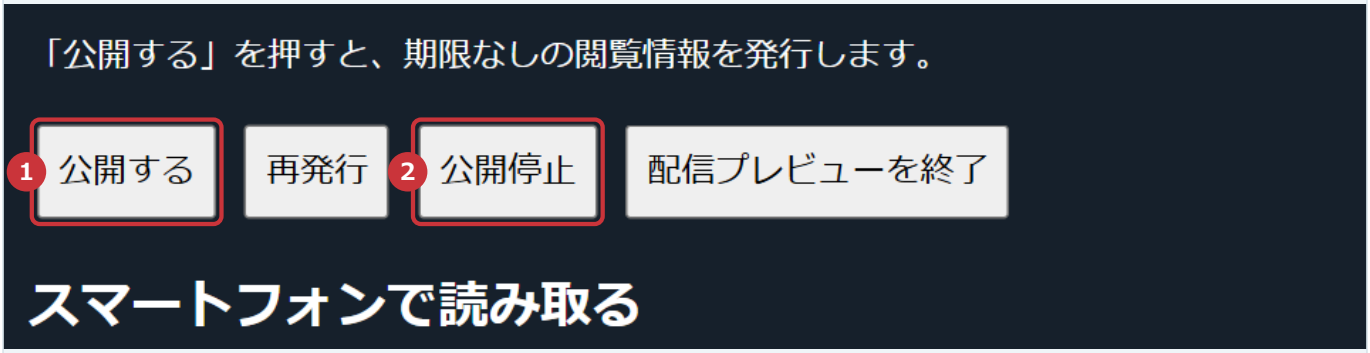
証明書のHTTP-01方式にはTCP80も必要です。9444・Windows共有445・管理画面は公開しません。DMZやファイアウォール全停止は使いません。

操作 17

インターネットへ公開する

配信PC / 公開画面

画面の一部を拡大



現行Web画面に説明用データを表示 / 赤枠・番号は本書の説明用

1 **公開する**
機器登録・認証・カメラ画像を確認してから公開します。

2 **見せないときは公開停止**
公開を止めます。アプリ自体の終了とは別です。

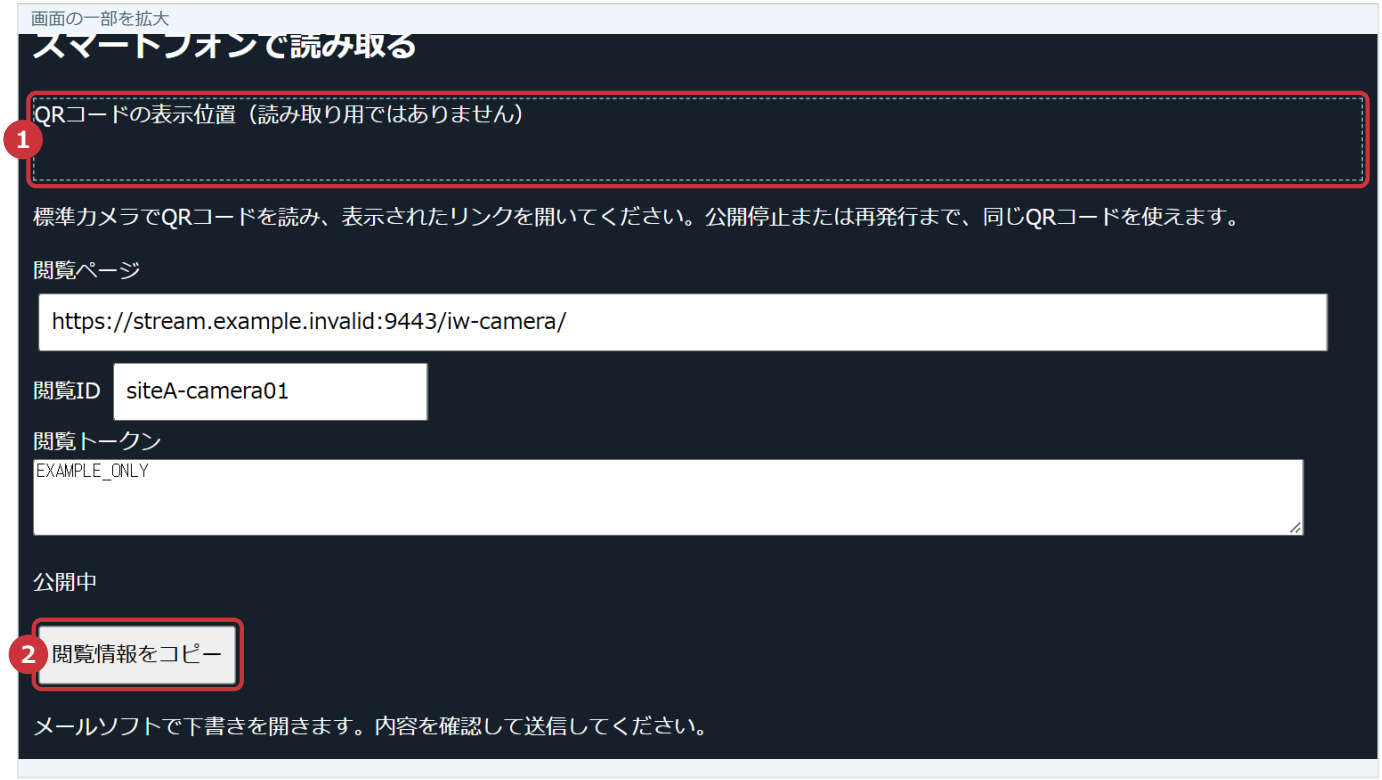
確認：インターネット用の閲覧情報が表示されている。

次のページで、QRコードや閲覧情報の渡し方を確認します。

操作 18

インターネットの閲覧情報を渡す

配信PC / 公開画面



現行Web画面に説明用データを表示 / 赤枠・番号は本書の説明用

1 **スマホは実際のQRを読む**
QRに必要な閲覧情報が含まれます。LAN用QRとは別です。

2 **PCへ渡すときは閲覧情報をコピー**
閲覧ページ・ID・トークンをまとめてコピーします。必要な相手へだけ渡します。

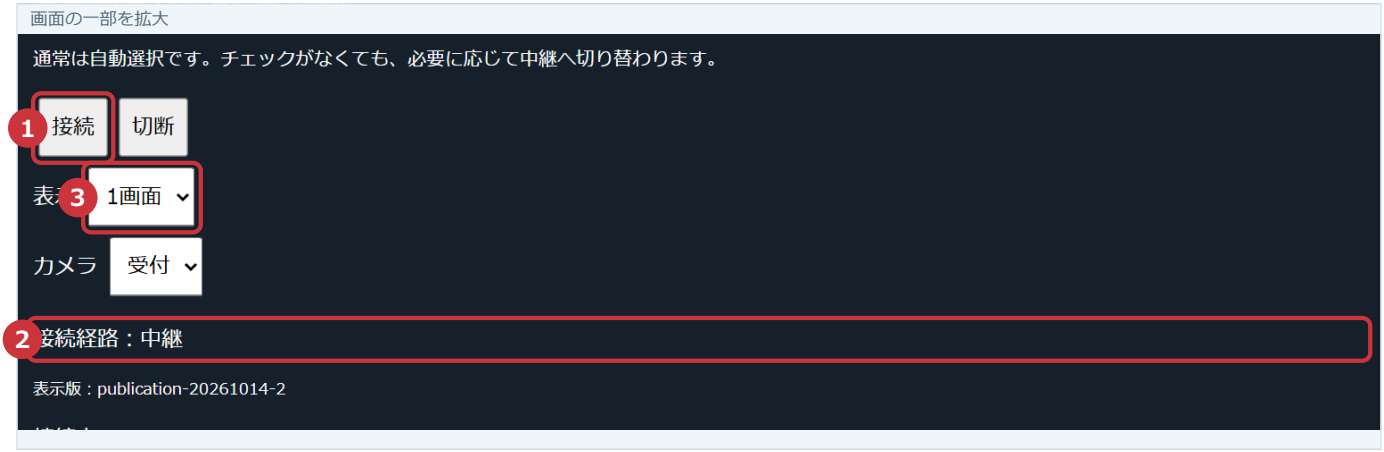
確認：視聴者が、インターネット用の閲覧情報を受け取った。

図の値とQR欄は説明用で接続できません。実際の画面のQRかコピー機能を使います。公開停止・再発行で古い情報は無効になります。

操作 19

4G／5Gから接続する

視聴スマホ / インターネット



現行Web画面に説明用データを表示 / 赤枠・番号は本書の説明用

1 接続を押す

Wi-Fiを切り、実際のインターネット用QRまたは閲覧情報で開いて接続します。

2 接続経路を確認

直接または中継で映像が届きます。通常は中継強制のチェックを入れません。

3 見たい表示を選ぶ

接続後に1画面・4分割やカメラを選びます。

確認：社外回線で実際の映像が更新される。

Wi-Fiと4G／5Gの切り替えで止まった場合は「接続」を押し直します。自動復帰を保証する機能ではありません。

操作 20

固定IPなしで運用する場合を確認する

サーバー担当者 / 非固定の公開IP



再現画面：現行の項目名に合わせた説明用の配置 / 赤枠・番号は本書の説明用

1. **公開先を名前でそろえる**
   DDNSは変化した公開IPを同じ名前へ反映する仕組みです。

2. **IP更新の動作を確認**
   ルーター等で更新されることと、外部回線から届くことを確認します。

3. **証明書・TURNも照合**
   名前に合うHTTPS証明書と、サーバー・TURNの公開先を合わせます。

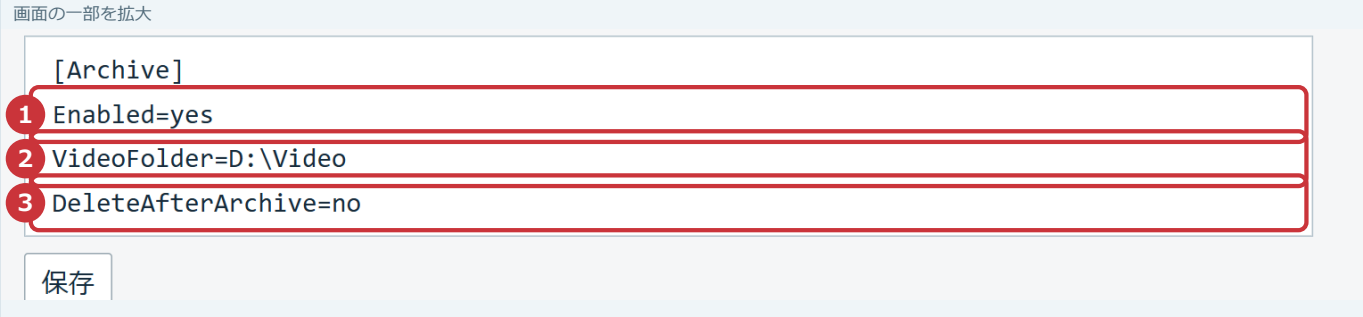
確認：公開IP変更後も、外部回線で接続を確認できる。

IP直書きの現行構成はIP変更を自動追従しません。DDNSだけでアプリまで自動設定されるわけではなく、構築・実機試験が別途必要です。

操作 21

1時間ごとのMP4保存を設定する

配信PC / IWSeditor



再現画面：現行の項目名に合わせた説明用の配置 / 赤枠・番号は本書の説明用

1 **自動保存を有効にする**
Enabled=yesにします。

2 **動画保存先を指定**
配信PCから書き込める場所を指定します。

3 **元のJPEGを残す**
DeleteAfterArchive=noのまま使います。

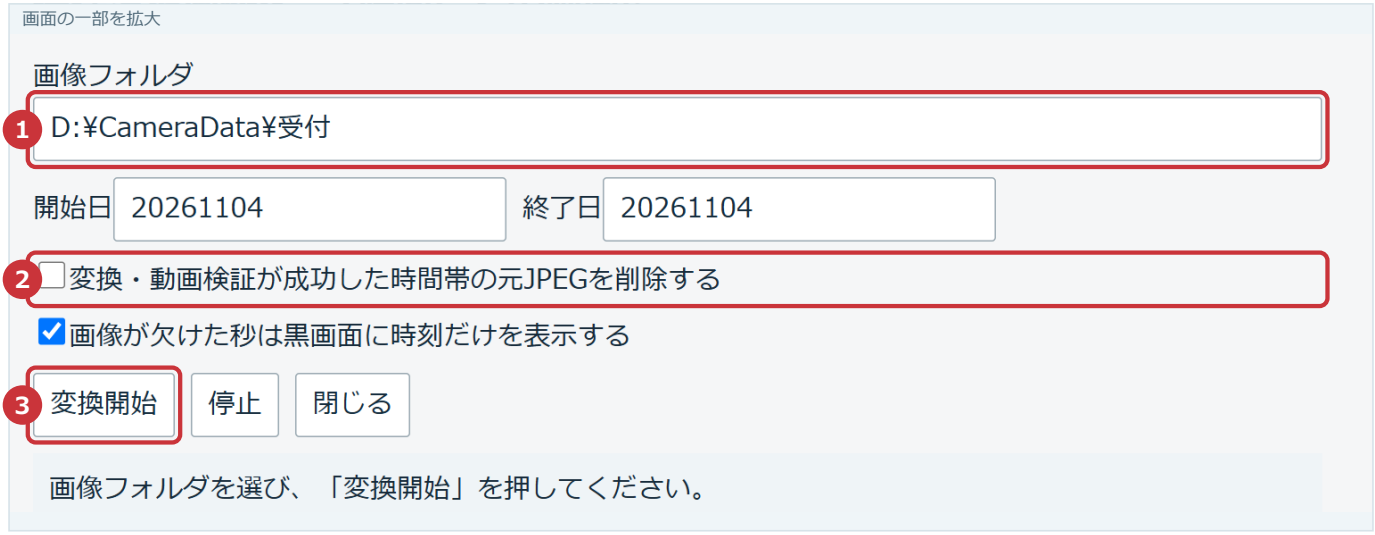
確認：時間帯終了から5分後以降にMP4ができ、再生できる。

例：10時台は11時を過ぎ、さらに5分後から対象です。過去分が多い場合は順番に処理します。JPEG由来の動画に音声は入りません。

操作 22

保存済み画像を手動でMP4にする

視聴PC / JPEG → MP4



再現画面：現行の項目名に合わせた説明用の配置 / 赤枠・番号は本書の説明用

1 **画像フォルダを指定**
カメラ別フォルダーや日付フォルダーを選びます。

2 **最初は削除しない**
元JPEGを削除するチェックは外したまま、変換を試します。

3 **変換開始を押す**
必要なら開始日・終了日を入力して実行します。

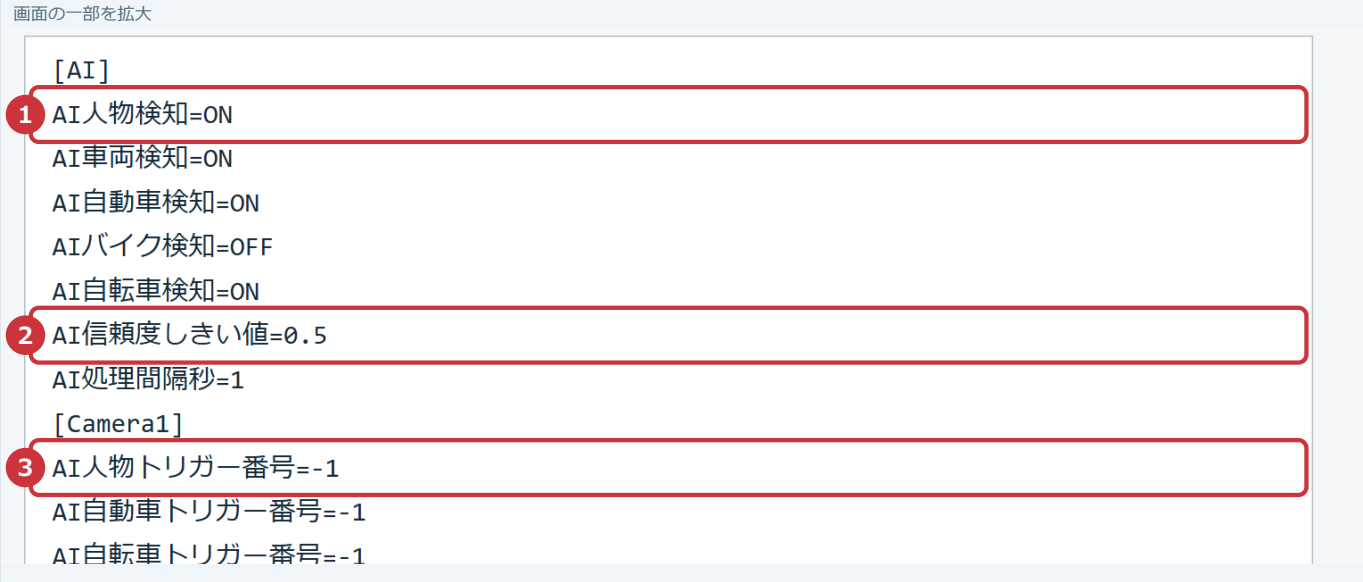
確認：完了したMP4を開き、時刻と映像を確認できる。

IWViewerの「JPEG → MP4」から開きます。自動保存のVideoFolder設定とは別で、この手動変換は画像の日付フォルダーへ保存します。

操作 23

AI検知を有効にする

配信PC / IWSeditor



再現画面：現行の項目名に合わせた説明用の配置 / 赤枠・番号は本書の説明用

1 **必要な種類をONにする**
人物・自動車・バイク・自転車から必要な種類を選びます。

2 **しきい値は0.5から**
暗さや距離で変わるため、実際の映像で少しずつ調整します。

3 **最初は通知しない**
トリガー番号を-1のまま、囲みの表示だけを確認します。

確認：必要な種類の対象に囲みが出る。

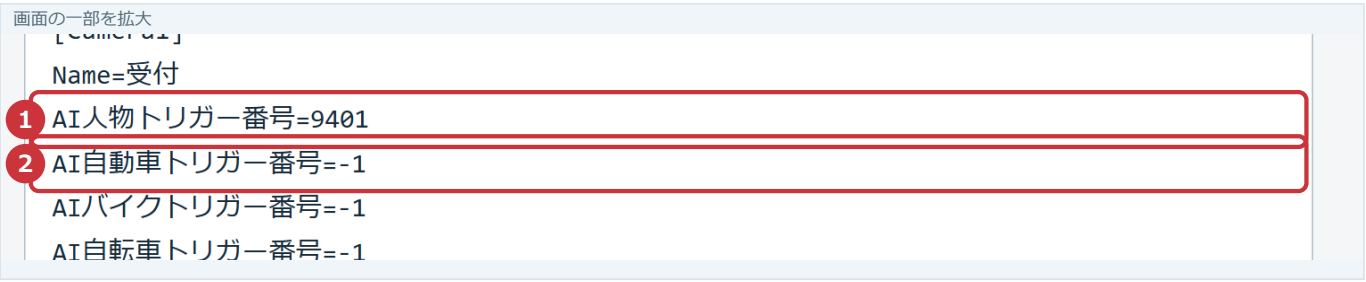
配信PCで検知し、Viewerやスマホへ囲み付き映像を送ります。通知値は現在の検知数で、累計の通過人数ではありません。

操作 24

検知をIWStationへ通知する

配信PC / IWSeditor・IWStation

画面の一部を拡大



再現画面：現行の項目名に合わせた説明用の配置 / 赤枠・番号は本書の説明用

1 受信SEEDと同じ番号にする

例は人物9401。既存の処理・終了用番号と重複しない、IWStationで使える番号を選びます。

2 使わない種類は-1

通知を使わない種類は無効のままにします。

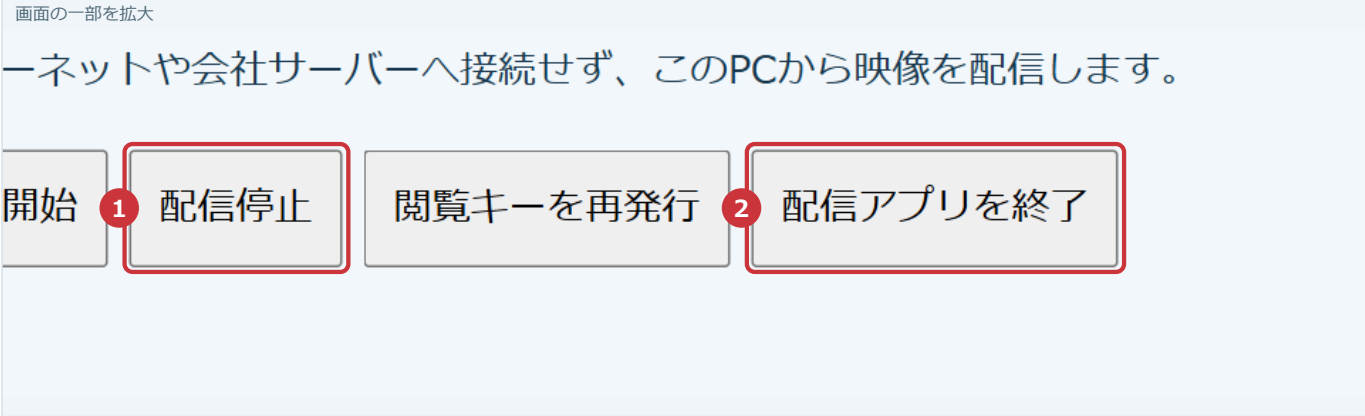
確認：同じPCの受信SEEDが、正しい番号と検知数を受け取る。

先に表示・記録だけで受信確認を行い、その後リレー等へつなぎます。人物・自動車・自転車は通知42件の一致を確認済み。バイクの実写陽性は別途確認が必要です。

操作 25

配信を止める・アプリを終了する

配信PC / LAN操作画面



現行Web画面に説明用データを表示 / 赤枠・番号は本書の説明用

1 **視聴だけを停止する**
配信停止は視聴者への配信を止めます。AI検知を終える操作とは別です。

2 **業務終了はアプリを終了**
検知・通知も止める場合は配信アプリ全体を終了します。

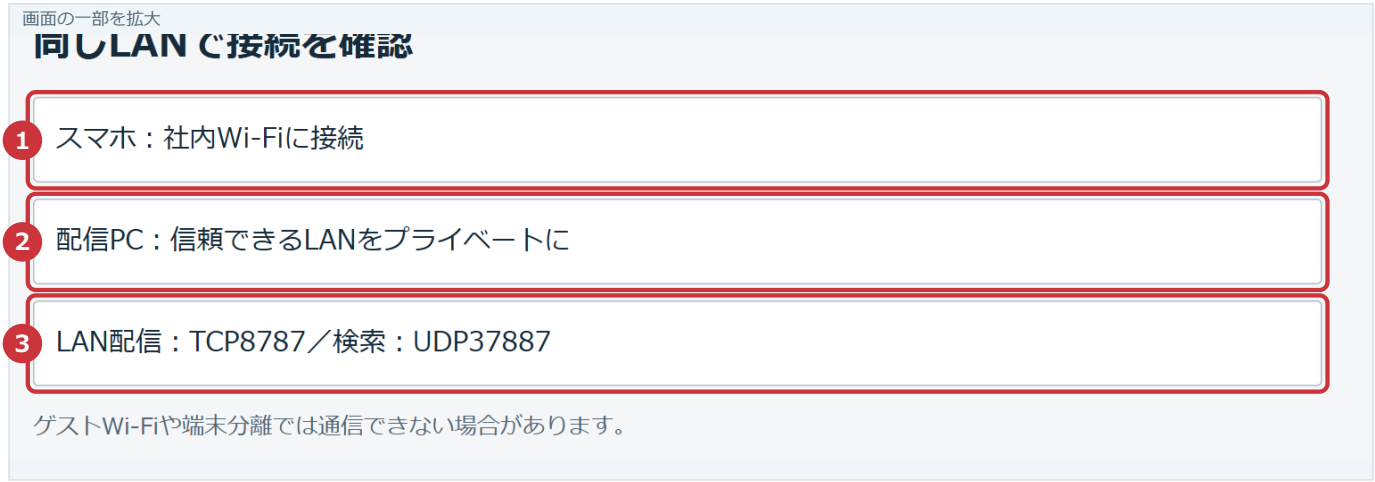
確認：視聴側で終了・切断の案内になり、古い画像が消える。

×で操作画面を閉じただけでは配信は続く場合があります。Controlの終了と、別に動くStreamerの終了を区別します。

操作 26

LANでつながらないときに確認する

配信PC・スマホ



再現画面：現行の項目名に合わせた説明用の配置 / 赤枠・番号は本書の説明用

1 **同じLANか確認**
スマホが社内Wi-Fiか、ゲスト分離や別のLANでないか確認します。

2 **信頼できる接続種別を確認**
社内LANはプライベートにします。受信許可は必要なアプリとLANの範囲に限定します。

3 **標準ポートに合わせる**
ListenPort変更時は標準の8787用許可では届きません。通常は標準へ戻して試します。

確認：配信PC→最新URL→別端末の順に原因を絞れた。

画像時刻未取得なら、先にJPEG保存先を確認します。サーバー停止・証明書の警告は導入担当者が修正します。

補足 01

非固定IPとルーターの確認表

ルーター設定は機種ごとの説明書と照合します。

LANのIP変更	登録済みIWViewerは配信元の識別情報で再検索します。同じLANで検索が届き、有効なキーが必要です。スマホの古いURLは自動更新されないため、新しいQRで開き直します。
中継サーバーの公開IP変更	IP直書き構成は自動追従しません。DDNS・公開URL・HTTPS証明書・TURNの公開アドレスを合わせ、外部回線で実機確認が必要です。
必要な入口の例	TCP9443：HTTPS／TCP・UDP3478：TURN／UDP50000-50099：今回の中継範囲。設定した内部サーバーへ同じ番号を転送します。
証明書更新	HTTP-01方式はTCP80の到達性が必要です。別の認証方式は要件が異なります。有効期限と自動更新結果も確認します。
二重NAT・回線の制約	複数ルーターや共有IPv4、利用ポート制限で外部受信できない場合があります。回線提供元・管理担当者へ公開の可否を確認します。

画面が異なる場合

「ポート転送」「ポート変換」「静的NAPT」などを探します。DMZやファイアウォール全停止を使わず、必要な番号と転送先だけを設定します。

補足 02

設定を保存して使うとき

画面は操作箇所を示す抜粋です。既存の設定を消さないでください。

設定の書式	IWSeditorでCP932として保存します。同じ見出し・項目を重複して追加せず、等号の右側を編集します。変更後はアプリ停止→保存→再読み込み→起動です。
Remoteの追加設定	Enabled=yes／ConnectionMode=server／InstanceId／ServerUrl／DeviceCredentialFile／PreferP2P=yes／AllowTurnRelay=yes／ListenAddress=127.0.0.1／ListenPort=8443／PublicUrl= をそろえます。
サーバーの初期構築	機器登録と認証ファイル発行、Apache・Broker・TURN・HTTPSの準備は導入担当者が行います。ポート転送だけでは完成しません。図の値では接続できません。
起動と終了	サーバー起動スクリプトはWindowsサービス自動起動とは別です。再起動後は稼働を確認します。配信の公開停止・操作画面の×・配信アプリ終了も区別します。

権限と記録の保管

管理用URLや認証ファイルはアクセスを限った場所へ保管します。視聴用URLも見せてよい相手にだけ渡し、キーを再発行したら渡し直します。JPEG・動画・AIイベントの容量を定期点検します。

補足 03

困ったとき・確認した範囲

映像・時刻・保存先の実ファイルまで確認します。

画像時刻が未取得	最新JPEGを開けるか、撮影処理が更新しているか、ImageFolderが日付フォルダーの1つ上か確認します。
接続ボタンが出ない	URLの#token=以降が足りているか確認し、入力エラーを解消してから登録します。
インターネットで映らない	サーバー起動・公開URL・証明書・Broker・TURN・公開状態・JPEGを順に確認します。ページだけ出てもBrokerが動いているとは限りません。
MP4ができない	時間帯終了から5分以上経ったか、保存先へ書けるか、過去分の処理待ちでないか確認します。
実機の確認範囲	LAN・社外スマホ視聴、1時間のMP4、人物・自動車・自転車の囲みと通知42件一致を確認。バイク実写陽性、長時間・大人数、回線切替時の自動復帰は保証済みとはしません。

参考資料

ルーター設定例は機種共通です。BUFFALOのDHCP固定割り当てとLet’s EncryptのHTTP-01要件を照合しています。DDNS構成は現場で別途構築・試験してください。

BUFFALO：DHCP固定割り当て

https://www.buffalo.jp/support/faq/detail/15917.html

Let’s Encrypt：ポート80

https://letsencrypt.org/docs/allow-port-80/